



学校だより

和歌山市立四箇郷小学校

平成30(2018)年度:No.44

10月号No.2文責/校長:上田 仁



同じクラスの写真ではありません。一見同じ雰囲気ですが微妙にちがうことがわかりでしょうか？先日、県の学習到達度調査が4・5年生で実施されました。国語と算数(5年生は理科も)の問題を見てみると、その文字と図と表とグラフの量に圧倒されます(と言ってもこれまでもそうでしたが)。来年4月に6年生が受ける全国調査では、A問題(基礎)とB問題(応用)が合わさった問題になる予定です。ですので、これまで以上に大量の情報をい

かに速く正確に処理し、条件にあった答えを導き出すことができるかどうかポイントになると思っています。

考えてみれば、誰もが学校から社会に出て働く際に、迅速な処理と的確な判断をし、それらに基づいた対処が必要とされます。広義にとられるならば、テストのときに子供がしている作業と同じかもしれません。その職場に入って数年は指示待ちで働くことは可能でも、年齢と経



験を重ね役職がついてくるとそうはいきません。船長や機長、工場長や主任、店長やチーフ等々、どんな役職においても上記の能力が求められるのは必然です。本校のエアコン設置やトイレ改修の工事のときもまたしかりで、本当に毎日毎日、監督さんが段取りに奔走しているように見えました。

全国調査で見えてくるのは、何も順位うんぬんだけでのことではありません。出題の傾向を見ると、ひいては、こんな能力を身につけた大人を育ててほしいという国の要望がわかるとも言えるでしょう。

文科省が今求めている学力の一部が見えてきます。ひいては、こんな能力を身につけた大人を育ててほしいという国の要望がわかるとも言えるでしょう。

本校の教育目標は、「社会を生き抜く力を備えた子供を育てる」です。四箇郷の子が、社会に出て働いて、家庭や家族をもって生活していくための力の一部として学力が必要ならば、学校や家庭は真摯にとらえて、子供のために共に進めていくことは当然ではないでしょうか。